

第9回 青葉通駅前エリアのあり方検討協議会 議事概要

日 時	令和6年12月23日(月) 13:30~14:55
会 場	アーバンネット仙台中央ビル 4階 カンファレンスA・B
議 題	1. 開会 2. 今回の趣旨、今後のスケジュール 3. 未来ビジョン中間案 4. コミュニティ(人材の発掘、コミュニティの育成について) 5. 意見交換 6. 閉会
配布資料	本日の座席表 資料1 はじめに(今回の趣旨、今後のスケジュール) 資料2 将来ビジョン骨子案からの主な変更点 資料3 未来ビジョン中間案 資料4 未来ビジョン中間案アンケート用紙 資料5 コミュニティ(人材の発掘、コミュニティ育成について) 資料6 非公開ミーティングアンケート用紙 資料7 将来ビジョン骨子案に関するアンケート結果

○主な意見等

(委員意見)

- ・回遊性に重点が置かれており、3ページの対象エリアの図も回遊性ということが分かりやすくなった。
- ・ビジョンでは仙台の愛着の「起点」と表現され、回遊の「起点」となるという説明でもあった。エリアの目標にも回遊の「起点」が記載されている。
- ・その中で、コンセプトの“センター”という表現は「中心」と捉える。このエリアの地域特性も活かしてもらい、このエリアだけがヒューマニティになれば良い訳でない。
- ・仙台市は“世界に勝つことができるまちづくり”を大きいコンセプトとして打ち出していると認識している。その中ではヒューマニティな街づくりが欠かせないことは、誰もが分かることである。
- ・このような状況で、このエリアを“センター”として打ち出すのではなく、起点と言う意味を含めて「フロント・オブ・ヒューマニティ」とするのはいかがか。“フロント”は最前線として、エリア的な最前線、心持ちでも最前線でありたいとした方が納得できる。

(事務局回答)

- ・いただいたご意見、今回のアンケート結果を踏まえて再度検討いたします。

(委員意見)

- ・骨子案のアンケート結果を見ると、「回遊の起点となる」ことが皆さんの意見の中で多く見られた。
- ・定禅寺通、このエリア以外の青葉通、アーケード街、東口でもバラエティに富んだまちづくりが行われている。このエリアは仙台駅の直近であり、注目を浴びる場所である。定禅寺通、アーケード街、東口にもこのエリアを起点として出かけていくような表現にすると、アンケート結果であった「動的の広がりを感じにくい」という点を改善できると思う。
- ・インバウンドでは、仙台市としても外国人観光客に対する取り組みを推し進めている。
- ・インバウンドの方を如何に仙台を中心に東北6県、新潟にどのように誘客、回遊させていくかが見えてくると深みが増すと思う。
- ・グラデーション、ポジティブ、ヒューマニティという言葉はそれぞれ分かる。ただし、センター・オブ・ヒューマニティという形になると理解が難しくなる。説明があると理解できるが、説明がなくとも図やイラストを見ることで分かりやすくなると思う。

(委員意見)

- ・他の委員からも意見としてあったとおり、このエリアが起点となり、人が集まり、様々な場所に回遊していくことが重要だと考える。
- ・違和感として、仙台への「愛着」という表現がキーワードとして弱いと思う。愛着としてこのエリアを好きに思うことも必要だが、仙台の外から来て「ここに行きたい」など魅力あるエリアにしていくようなキーワードになっても良いと考える。
- ・グラデーション・ポジティブ、センター・オブ・ヒューマニティの位置付けが分かりづらい。人を視点として考えていくとなると、センター・オブ・ヒューマニティがベースにあるのグラデーション・ポジティブなのか、どちらとも共存しながらビジョンを目指すのか。個人的には、人を視点としてのグラデーション・ポジティブがあって、このエリアのあらゆる施策をしていくとビジョンに達していくと考える。

(委員意見)

- ・グラデーションという言葉の成り立ちを辿ると、「グレード」にまずは行きつく。
- ・「グレード」は成績のこと。なんとなくありのまま認めるのではなく、「物差しを持ってこの辺に位置付ける」という意味を含んでしまっていないか。
- ・誰も取り残さないように包摂的に行っていく考え方は素晴らしいが、一次元的に並べてしまう意味が強いのではないかと気になった。
- ・さらに語源を辿ると、ラテン語に行きつく。ラテン語では前に進む、歩くという感じ。歩くのに前に出るか、後ろに出るかという意味であって、この人が優れている、劣っているというような区別する意味はないことが分かったので、グラデーションという表現は良いと思った。
- ・グラデーションを日本語にすると、階級、濃淡という言葉になる。

- ・パソコンで絵を描く際に、色と色を混ぜ合わせて色を作ることがある。1つの色で濃淡をつけるというよりは、グラデーションと聞くと多くの人は違うものを混ぜ合わせていく解釈をしている。
- ・以上のことから総じて、表現としては良いと感じた。

(委員意見)

- ・横文字が多すぎる感じがする。
- ・日本人なので、分かりやすい日本語が良い。カッコつけている感じがする。
- ・日本語は便利であり、皆が発想しやすい。そのような日本語を探してほしい。
- ・社内で未来ビジョンを説明する際に、若い社員に「グラデーション・ポジティブ」って何ですか？と聞かれても説明できない。他の委員は辞書を引いて調べるくらいの内容である。社員に咀嚼して説明できる程度にしてほしい。
- ・資料5で説明があったコミュニティのざっくばらんミーティングには参加したい。若い社員も参加させたい。
- ・青葉通沿道で業務を展開する中で、社員がどう考えるか。若い社員の方が発想豊かである。
- ・ざっくばらんミーティングの趣旨を教えてください。

(事務局回答)

- ・資料5のとおり、ざっくばらんミーティングは社会実験の結果を伝えながら率直なコメントや感じていることをカジュアルに話す会であり、今回は来年度にどんな動きを取るとより良いコミュニティが育ちそうか、ざっくばらんに話をしたいと思っている。

(委員意見)

- ・日本語に置き換えられればいいが、日本語だからと言って皆が同じように理解できるとは限らない。
- ・日本語も検討したと思うが、事務局としてはいかがか？

(事務局回答)

- ・日本語で表すのも難しい、英語だと意味の説明が必要であり難しい。
- ・将来ビジョン検討事務局内でも、グラデーション・ポジティブ、ヒューマニティの定義をどうするか？というのは議論の渦中である。どこまで明言化するか、もしくは軸は共通認識として必要であるが、それぞれの表現が想像の余地があるようにするかは、皆さんの意見も踏まえて考えていきたい。
- ・キーワードとして「東北」を使うかも事務局メンバーで議論になった。仙台出身の方と県外から来た方では捉え方が違う。仙台が東北を牽引するという気持ちがあった方が嬉しいというメンバーもいれば、このエリアからだろうという方もいる。考え方にもグラデーションがある。

- ・最終的に今回の中間案としては、このエリアがあらゆるゆたかさが生まれるようにしていくこと、回遊の起点となるというキーワードを入れている。「このエリアで過ごす事が良いな」など、このエリアの魅力を感じてもらおうとともに、回遊していくうえで仙台全体への愛着も醸成できれば良いと考え中間案を皆様に共有した。

(委員意見)

- ・本日の説明は内容、意図することが分かりやすく、私は理解できた。
- ・グラデーション・ポジティブ、センター・オブ・ヒューマニティについては本日の説明で「造語」という説明を受けた。その点、海外の方も理解してもらえるのかな？と感じた。
- ・議論の中でインバウンドといったキーワードが出てきている。仙台市は観光に力を入れていくことも聞いている。この言葉で十分外国の方に意味が通じればよい。
- ・回遊の起点は、まずは範囲を広げすぎると、とめどなく大きくなりすぎてしまう。まずはこのエリアがしっかりしないと広がりを持たせられないため、段階的に広い範囲に波及させていければ良いと考える。

(事務局回答)

- ・表現について、外国の方（ネイティブ）にも確認はしている。

(事務局回答)

- ・個人的な意見であり恐縮であるが述べさせていただく。
- ・インスタグラムにて福岡市の投稿を閲覧していたところ、「福岡市はコントラストのある街」という形で紹介されていた。どういうことか？と思い説明を読んだところ、「福岡は都心部の再開発により活気があり、公園や歴史もある」という内容であった。そこで自分の中で考えて「メリハリやいろんな価値があることか」考えたところ分かってきた。
- ・人によるとは思うが、すんなりと入ってくる言葉、例えば杜の都などがあるが、一旦疑問に思って考えていくと、頭の中に残りやすいと考える。前回の協議会の意見交換にて、委員から「とある大学のスローガンは“創造から統合へ”である。最初聞いたときは理解できなかったが、説明を聞くと理解でき、今でも頭の中に残っている」との意見があった。
- ・将来ビジョン検討事務局では、イラストを交え分かりやすい説明を心がけたい。

(委員意見)

- ・前回の協議会でも確かに話になった。引っ掛かりがまったくないと忘れてしまいやすい。耳に入りやすい表現が本当によいのか？少し考えたら分かる表現が良いのではないのか？という話であったと解釈する。

以上